

令和4年度第3回学校運営協議会 議事録

1 日時 令和4年10月14日（金）、14：30～15：30

2 場所 湖南高等学校 図書室

3 参加者

委員（敬称略・順不同）

小山 伝一郎、佐藤 忠男、大内 紀男、満田 仁一、鈴木 勝美、和田 祐樹、
片平 力也、山口 正国、酒井 祐治

事務局

渡辺 延幸、星 祐司、森 修、高柴 有一、熊田 厚志、三橋 和佳、五十嵐 稜、
大山 洋子

4 内容

(1) 開会のことば

(2) 会長あいさつ 小山会長

本日はお集まりいただき、本当にありがとうございます。秋の収穫のお忙しい時期とは思いますが、忌憚のないご意見をお聞かせください。学校も昨日、蕎麦の収穫が行われましたが、今後も様々な行事が予定されています。皆様に協力をお願いする場面もあるかと思しますので、その際はよろしくお願ひします。

(3) 校長あいさつ 酒井校長

私の方からは、近況報告させていただきます。2年生については、来週から修学旅行で広島・関西方面へ、1・3年生については、木曜日に防災教育で東日本大震災伝承館へ行くことになっております。

また、3年生については、昨年に引き続き運営協議会の方々を中心に面接指導をお願いしたのですが、おかげさまで、現在のところ第1志望全員合格となっております。

菱の実祭では、同窓会の皆様を中心にご協力いただきましたが、来客も前回は上回り大盛況となりました。

ボート部の活動についても、同窓会の皆様を始め、湖南町の皆様のご支援・ご協力により、多くの基金が集まりました。今後は、この基金を有効活用し、魅力ある学校づくりをしていきたいと思ひます。

コミュニティ・スクールも3年目となりましたが、昨年度より他校が湖南高校を視察に訪れるようになりました。今年も11月に、宮城県の柴田高校と静岡県の富士宮西高校が本校の取組を視察に来ます。これは運営協議会が軌道に乗り、取組が評価されているからだと思ひます。しかし、まだまだ生徒が主体的に活動できていないため、今後は生徒が主体的に動けるような形にしていきたいと思ひます。

今日は、皆様方のご意見をお聞きして、下半期の学校運営に繋げられればと思ひますので

どうぞよろしく願いいたします。

(4) 学校からの報告 星教頭

コミュニティ・スクールとしての取組内容について報告

※資料5 ページから 15 ページ参照

(5) 協議「湖南高校の魅力を生徒数確保に繋げるための取組について」

・県立高等学校改革後期実施計画では、「入学者数が募集定員の2分の1以下になるなど、教育の維持が著しく困難な場合、あるいは地元からの入学者数の割合が著しく低い場合には、存続について検討します。」という文言が残っており、危機感を持たなければいけないと思っている。

・湖南高校の更なる魅力化を図り、郡山市内からはもちろん、地元からも「湖南高校ならばいろいろな体験から多くのことを学べる」と思ってもらえれば、生徒数の増加も可能ではないか。

・郡山市内での湖南高校の存在意義は大きい。学力だけではなく、進学率や就職率では計ることができない地域との触れあいや体験活動から、「生きる道」を見いだしてあげられる高校がまさしく湖南高校だと思う。

・市内にはいろいろな課題を抱えている生徒がいると思うが、それらの生徒を受け入れる高校として湖南高校の立ち位置があるのではないか。

・子どもの数が減り、大学全入時代と言われている。進学を考えたときに湖南高校を選択するという生徒は少ない。しかし、一般入試では難しいが、昨年度の福島大学合格のように、「コミュニティ・スクールの活動を使った入試等で大学に行けるならば湖南高校でもいい」と思ってくれる生徒がいるのではないか。

・コミュニティ・スクールも軌道に乗り、昨年度福島大学に合格したことも実績の1つである。こういう実績を少しずつ積み上げていくことが、5年後、10年後につながるのではないかと思う。

・就職に関しては、湖南高校はビジネススクールではないので、「本当に自分がやりたいことや自分が大切にしたいことと向き合うことができる、どう生きていきたいかということを生先方と一緒に考えることができる」ということが重要で、それができる学校が湖南高校だと思う。

・中学校の時に不登校ぎみだった生徒が皆勤で卒業したということも湖南高校の価値だと思う。「この価値をどうやって可視化できるか」という方向に向かった方がいいのではないか。

・中学生の進路選択の理由のひとつに部活動があるが、運動部だと、ソフトテニスとボートのみである。湖南小中学校にはソフトテニスはあるがボートはないということから、「小中学生の頃からボートをやる環境をつくる」という方法もあるのではないか。湖南にはボートが根付いているということもあり、地元の生徒を呼び込む方法のひとつではないか。

・良いものを作れば売れるのではなく、どのように売り込むかが重要だとすると、湖南高校は学校としてはこれ以上ないぐらい素晴らしい取組をしているが生徒数が少ない。その辺について先生方の考えはどうなっているのか教えていただきたい。

・現在の教員数でできる部分はやりきっていると思う。このことから取組をどのように発信して多くの人に知ってもらえるかが大きいと思う。

・これ以上ないぐらいのことに取り組んでいる。その良さをいかに各中学校に可視化していくかが大事なのではないか。特に生徒の進路選択に影響を持つ中学校の先生たちに知ってもらうことが大切なのではないか。

・湖南高校の素晴らしい面をどのようにして郡山市内の中学校へ伝えるか。湖南小中学校で勤務した経験のある郡山市内の先生方を活用するのも手段のひとつではないか。

・少子化により湖南小中学校からの入学者を増やすことは難しいと思うので、郡山市全域の中学校というよりは、バス沿線の中学校を中心に、今やっている取組を伝えるべきではないか。露出の方法については、郡山市で行っている日本遺産の「一本の水路」という事業で、開拓者精神を持って取り組んでいる活動をブランド認証している。湖南高校のコミュニティ・スクールの取組も十分該当する。認証されることで報道してもらえたりする。広く宣伝する部分と特定の中学校に働きかけることが効果的ではないか。

・保護者も高校に対するイメージがある。「進学はこの学校、就職はこの学校」など。そのため、何を学校が目指しているのかイメージしやすくするために、スローガンを作る学校が増えている。これまで湖南高校の実践をわかりやすく一言で伝えるようなスローガンを作れば、わかりやすく、中学生が目指しやすい学校になるのではないかと思う。

・世の中では探究が流行で、学校では生徒たちに探究を勧めている。探究とういうのはアウトプットすること。しかし、丁寧なインプットがされていないためアウトプットできず、探究疲れが生じている。湖南高校は、先生が生徒に寄り添い、地域のことを丁寧にインプットしてくれる。

・湖南高校は、中学校時代は目立たなかった生徒が多い。湖南高校に来ると、距離が近く手をかけてくれる先生が多いため、生徒の特性とマッチしているのではないかと思う。「新しい自分を見つけない、新しい自分になりたい」という生徒にとって魅力ある学校だと思う。

・これまでの話からも、生徒へのアピールの言葉として、「あなたが主役になれる学校」というのが合っているのではないかな。

・先生方や関係者だけでなく、生徒の声も聞いてみたい。言葉で表現することが得意ではない生徒もいると思うが、文章や絵、映像などの方法でもいいので、生徒からも湖南高校の魅力を伝えることができればいいのではないかな。

・次回の運営協議会では、前好光先生の講演会を行う予定だが、その際、生徒も一緒に参加させていただき、講演会後の協議会で生徒が話す機会を作りたい。その時は生徒のいろいろな意見を吸い上げていただきたい。

・10月25日（火）、6月に一緒に田植えをした城北埼玉高校が来校する。午前中に稲刈りを行い、午後は、「湖南の現状と農業の課題」という題で小山会長に講演をお願いしている。また、11月19日（土）から20日（日）の耶麻農業高校、福島商業高校、湖南高校の3校合同イベントでは、19日に各校で栽培した花や商品開発した物品の販売会を予定している。花については岩瀬農業高校にもご協力いただいている。他にも交流会や湖南の郷土料理体験などを計画している。

・地元への周知や販売など運営協議会で手伝える部分があれば協力していきたい。

（6）閉会のことば

※諸連絡

次回の学校運営協議会は、12月7日（水）です。よろしくお願ひします。（16：00 終了）